

青少年委員だより

新しい生活様式での試み

第156号



オンラインでの研修会始めました！

今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、6月まで活動を休止せざるを得ない日々が続きました。

57人の委員が一堂に会する毎月の定例会研修を企画、運営する研修部会では、今年度の研修計画をたてましたが、3密を避けて実行するにはどうすれば良いか、どのように進めていけば良いかの検討を重ねました。

収容人数が多い会場であれば、3密を防ぎ、講演会などの実施は可能ですが、委員の中では家庭の事情等により、大人数が集まる会議への参加、公共交通機関の利用が困難な方もいました。そこで、定例会研修をオンラインで開催することを検討し始め、8月からWeb会議アプリ【Webex】を使用し、オンラインで行うことを決定しました。

ライブ配信で、自宅や区民館の会議室で視聴するというものです。

委員それぞれ、ネット環境が違います。区民館のWiFi環境も調べてみると違いがあり、各地区部会で事前に試験運用を行い、全ての委員が参加できるように準備を整えました。当日は、音声ハウリングを起こすなど、改善しなければならぬ点がいくつか見受けられました。それでも、画面を通して、発表者は遠くにいる委員に向けて、情報を発信することができました。各委員もこれを受け取り、各自が活動を始めることができました。

8月以降もオンラインでの定例会研修を続けており、良い点・悪い点を研修部会で協議し、都度改善を重ねております。今後も、今できることに挑戦し、コロナ禍でも各委員の資質向上や育成活動に結び付けることができるよう、安全・安心な研修会を続けて行きたいと思っております。

(文責 中央地区部会 研修部員 山村ユカリ)



「コロナ禍だからこそ感じる地域の大切さ」

江戸川区立小学校PTA連合協議会
会長 田中 寿士（船堀小学校）

日頃より青少年委員の皆さまにはPTA連合協議会、各校PTAの活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により2ヶ月間も及ぶ休校からのスタートとなり、休校明け当初は分散登校でありましたが、6月22日から新しい生活様式のもとに通常登校となりました。

しかしながら、現在でも全校集会などは行えず、また給食についても友達とテーブルを合わせることなく授業時の座席のままの給食となっております。特に運動会や音楽会などの学校行事や各校PTAのお祭りも中止となり、子どもたちが楽しめるイベントが一切行えない状況となっております。このような状況下でありながらも『何か出来ることがあるのではないか』と各校の会長同士が情報交換などを行いながら模索し続けております。

子どもたちの成長には学校や家庭、PTAだけではなく、青少年委員の皆様をはじめ、区行政、町会・自治会といった地域が一体となり、連携を図っていくことがとても重要なことと考えております。時代の流れにより、地域コミュニティが昔に比べ希薄になってきているのではないかと感じることも事実です。このような時代だからこそ、より地域に根ざした形で私たちPTAも活動を行って参りたいと思っております。そのためにも青少年委員の皆様とPTAがより連携を深めていくとともに、私たちがPTAを終えても地域貢献を行ってゆくことが大切なことと感じております。

新型コロナウイルス感染症の影響は感染のみならず、接触機会が減少したことにより、子どもたちの置かれている状況が捉えにくくなりました。そのため例年以上に健全育成へ力を入れておりますので、青少年委員の皆様も、区行政の皆様にはより一層のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



「地域の皆様と手を携えて」

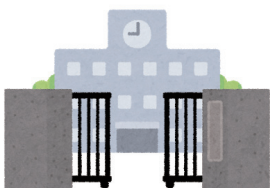
江戸川区立小学校長会
会長 山下 靖雄（平井小学校）

平素より青少年委員の皆様には、子どもたちの健全育成の推進に多大なお力添えをいただき、ますますともに、学校の教育活動へのご支援を賜りますことを心より感謝申し上げます。

さて、現在、学校では新型コロナウイルス感染症への対応に気を配り、新しい生活様式を模索しながら日々の教育活動を推進しているところです。3月から5月にかけての臨時休業措置を受け、私たち校長会も改めて、教育における学校、家庭、地域の役割と協力体制の大切さを考えることとなりました。子どもたちがこれまで当たり前のように行ってきた集団での学習や学校行事の取り組みがいかに大切なものであったのか、そして、地域で絶え間なく行っていた青少年委員の皆様をはじめとする、地域の皆様の健全育成活動が子どもたちの健全育成にいかにか大きな役割を果たしていたのかを強く感じております。そして、各校の保護者の皆様を中心としたPTA活動に学校がいかに支えられていたのかを感じました。

このコロナ禍の状況は様々な形で子どもたちの心身に影響を及ぼし始めています。コロナ後の新たな生活のスタートに向けても、これらの問題を見越してはならないと感じています。学校としてもこれまでのやり方にとらわれることなく、新たな対応方法や解決方法を模索しながら、地域の皆様、各家庭と連携を取り合い問題解決にあたりたいと思います。これまで通りの活動ができない状況においても、子どもたちの健全育成に関わる大人が知恵を出し合い、手を携えて子どもを見守り、成長を喜ぶ社会を築くことが今求められていることであると私は感じています。

どうか今後もご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



未来を担う人づくり研究グループ

現状を把握して、活動に活かす

未来を担う人づくり研究グループは、「子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所について、子どもたちとの交流を通じて、その理想型を導き出す活動を進めていく」ことを目的に、今年度も活動をスタートさせました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で子どもたちとの交流どころか、すくすくスクールやなごみの家へ足を運ぶこともできませんでした。小学校のイベントも相次いで中止となる中で、当グループでは、活動の方向性を見つけ出そうと昨年度までの活動を振り返りました。

すくすくスクールへの参加は、すくすくスクールやPTAが主催するイベントへ補助的・指導者の協力者として参加し、子どもたちと交流しながら、職員の皆さまとも意見交換を実施してきました。意見交換をする中から「目からウロコ」的な取り組みの話を知ることができ、逆にこちらからも提案などを行うことができました。

なごみの家でも、イベントに参加し、スタッフの皆さまと意見交換をしてきました。現在区内各地に9館あり、それぞれが特徴のあるイベントを企画しています。「誰もが住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けることができる地域づくり」を描きながら、日々地域と連携して活動をされており、青少年委員会としても連携を深め、支援していく必要性を感じていたところでした。

また、令和2年10月16日に開催された定例会研修では、小学校長会地域連携部長・浅野様よりご講演をいただき、学校からも青少年委員会に期待してくれていることを感じました。

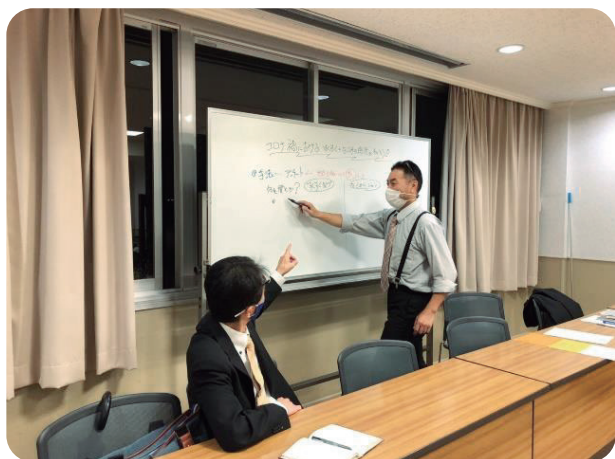
そこで、私たち未来を担う人づくり研究グループは活動を再開すべく、すくすくスクールやなごみの家の現状をしっかりと把握するため、アンケートの実施を計画しています。

当グループでは、こんな時だからこそ、出来ないで終わるのではなく、研鑽してきた英知を集め、何が出来るのかを考え、少しずつでも歩みを進めていきます。

(文責 中央地区部会 関清孝)



昨年度 活動の様子



今年度 打ち合わせの様子

わくわくレクリエーション研究グループ

ソーシャルディスタンスdeレクリエーション〜糸電話編〜

コロナ禍が収束しない現在、各学校・すくすくスクールの子どもたちは、3密を避け、活動する日々が続いているようです。

わくわくレクリエーション研究グループでは、3密を避けながらできるレクを考えてみました。

■準備するもの

- ・紙コップ
- ・ひも（風糸・毛糸・釣り糸等数種類を準備し、どのひもが一番聞こえるかを確認する）
- ・つまようじ
- ・ガムテープ
- ・クリップ
- ・カラーペン

■作り方

- ①紙コップの底につまようじで穴をあけ、ひもを通す
- ②コップの中のひもを大きな玉結びにし穴から抜けないようにする
- ③コップの内側からガムテープでしっかり留める
- ④紙コップにイラストを描いて、オリジナル糸電話の完成

■遊び方

- ①ひもの両端に紙コップをつけ2人1組で会話
- 【ポイント】どの位小さい声でも伝わ

わかるか、大きい声を出したらどうなるか、ひもの種類・長さを変えたらどうなるか、など色々試してみることににより、子どもたちの知的好奇心をくすぐります。

- ②クリップを使って大人数で会話。
(クリップの方法は写真参照)

【ポイント】何人までつなげられるかに挑戦することで、音が伝わる仕組みについて、より理解を深めることができます。

- ③数グループで競う伝言ゲーム
【ポイント】リーダーがお題を出し、最後の人が答える仕組みにし、質問が正しく伝わっているかを競い合います。

■まとめ

どの遊び方も体育館や校庭など、長い糸をびんと張れる広い場所で行うことにより、ソーシャルディスタンスを保ちながら遊ぶことができます。また、音の伝わる仕組みや、伝わり方を学ぶこともできます。

研究グループでは、数種類のひもで糸電話を作成しました。その結果、・毛糸も音を通すこと・釣り糸が一番クリアに音を通すことがわかりました。またグループメンバー10人の糸電話での会話も成功しました。糸電話作りから実践まで1時間ほどでできるレクリエーションとなりました。



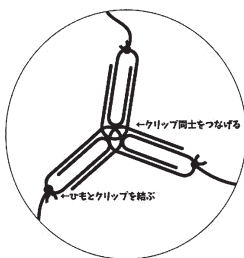
作っている様子



クリップを使い多数の糸電話を連結

地域活動の再開には、感染症対策が大切になってきます。子どもたちと一緒に、安心して楽しめるレクリエーション活動ができることを願っています。

(文責 小松川地区部会 笠松志保)



SNSを使った情報発信研究グループ

みなさんと青少年委員をつなぎます！

現代社会では分からないことがあるとスマートフォンやパソコンを使いインターネットを通じて調べることが当たり前になっています。知りたい内容を検索し、ホームページ（HP）へアクセスして必要な情報を得ることも日常化しています。

江戸川区青少年委員会でも江戸川区のホームページで情報を発信しています。

青少年委員は、地域の様々な青少年育成活動に対して支援・協力ができます。

ただ、そのことが、まだ地域に十分に認知されていないと感じています。そこで立ち上げたのが「SNSを使った情報発信研究グループ」です。

- 青少年委員とは…
- ・子ども会、PTA、すくすくスクールなどの育成活動に協力できます
 - ・特技を持つ委員の情報や技術で行事などに協力できます



「SNSを使った情報発信研究グループ」は、今期新たに結成された7名の研究グループです。青少年委員のHPの掲載内容の充実を図りながらSNSを用いてタイムリーな情報を必要とされている人に送りたいと思いついて活動を始めました。

コロナ禍で、子どもたちと向き合う機会が少ない中、必要な情報を写真や図表を使い、分かりやすく発信していきます。どうぞ、新しい情報発信にご期待ください。

（文責 小岩地区部会 中川隆）



SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
インターネットを介して人間関係を構築できるサービス



今期の活動目標

- ・江戸川区のHPの掲載方法について調査する。
- ・江戸川区のHP以外のツイッター・フェイスブック等情報発信ツールについて調査する。

子ども アカデミー

道具となかよし -前編-



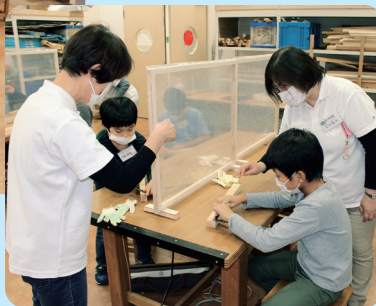
～それは一本の棒から始まった～

令和2年10月18日(日)、江戸川区子ども未来館において「曲尺と大工さんの知恵」の講座に青少年委員7名が講師として、子どもたちに指導しました。小学校3～6年生の子どもが13名参加しました。

新型コロナウイルス感染症の対策として、テーブルには透明の飛沫防止パネルを設置し、3分おきに休憩を行い、3密を避けるために決められた席で作業をしました。はじめに主な大工道具(鉋、差し金、鋸、金槌)の説明をすると、子どもたちの目が輝きだしました。全二回の講座をとおして「スパイスボックス」を作るので、今回は差し金を使い、木材に線を書いてみました。器用に使いこなす子どももいれば、なかなかコツがつかめない子どももいました。大工道具の体験では、鉋を使い木材を削る作業が、子どもたちはとても楽しかったようです。薄く削られた木屑を持ち帰る子どももいました。見

たこともない道具を使い大工さんの気分を味わえた貴重な2時間となりました。最後はしっかりと振り返りをして講座を閉会しました。次回がとても楽しみです。

(文責 鹿骨地区部会 笠井雅世)



あとがき

コロナ禍にあつて、青少年委員会も新しい生活様式を取り入れ、定例会研修をWeb方式で開催するなど、各委員が「どうしたらできるか」を考え行動に移しています。今号ではそうした活動状況について寄稿をお願いいたしました。催し物の中止が相次ぐ中、今期広報部員は掲載記事の収集に大変苦慮しています。それでも経験豊かな委員と新しい風を運んでくれる委員が適度に刺激し合い、新たな発想の記事の発掘に繋がっていると感じています。

コロナ収束の兆しが見えない状況ですが、子どもたちの明るい笑顔が戻ってくるまで、私たち青少年委員も研鑽を続け、活動を少しでもお伝えすることができれば幸いです。

青少年委員だより

発行 江戸川区青少年委員会
編集 広報部
連絡 江戸川区文化共育部

健全育成課育成活動支援係
☎03(5662)0357